①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・「のこりはいくつ」は，ひき算の式で求められることがわかり，ブロック操作で残りを求めることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・10までの数を合成，分解したり，10から20までの数を，「10といくつ」で表したりする学習をしている。

教材研究ノート№1-A-10

≪学習問題≫

かきが13こなっています。9ことると，なんこのこりますか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

**![MCj02280330000[1]]()**

②見通し:「のこりはいくつ」だから，ひき算の式になる。

→ブロックを使って求め方を考えよう。

②学習課題:ブロックをつかって，「13－9」のけいさんのしかたを，おはなしにしましょう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:動かすブロックや操作の順番に着目して，計算の仕方をお話にする。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「ブロックを使いながら，計算の仕方をお話しましょう。」

→（減々法）「まず3ことって、

次に6ことって，残りは4こ

になる。」

→（減加法）「10の方から9こ

とって，残りの1こと3こを合わせて4こになる。」

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

減々法

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

減加法

④共同追究後半（思考を深める）

「やり方に名前をつけるとしたら，どんな名前がいいかな？」

→「（減々法は）2回ひいているから，『ひいてひいて』がよいと思う。（減加法は）ひいてからたしているから，『ひいてたして』がわかりやすい。」

「どちらのやり方の方が自分でやりやすいかな。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・9このとり方で，2つのやりかたがあることがわかった。

・私は，「ひいてたして」のやり方の方が，9こを一気にとれてあとはたし算になるから，簡単だと思う。

⑥定着･活用問題

次のひきざんのこたえを，「ひいてひいて」と「ひいてたして」の2つのやりかたでブロックをつかってもとめよう。

(1）11－8　　(2）15－9

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，残りを求めるひき算の場面（求残）であることを明確にすることが大切である。

・13個のかきを数図ブロックで置き換える際に，10と3のまとまりに分けて置き換えさせて，この状態から個人追究を始めさせるとよい。

【板書計画】